

本
日 フォレスト

早生樹の種苗センターを建設

山土場での移動式破碎機導入に注力

木質燃料の製造・供給事業や木質リサイクルシステムプラントの設計・販売などを行う日本フォレスト(大分県日田市、森山和浩社長、☎0973・26

0750)は、同社天瀬工場(同市)近隣に種苗センターを建設し、早生樹の苗木生産を開始した。社有林の確保も進めており、試験林の実証・管理や賦存量の調査、伐採計画等を行う山林事業部を

設立。また、同社が販売する車載型ドラム式チップパーを山の中間土場で活用し、原木を現地破碎することで、チップ化事業の工程簡素化につなげる。

種苗センターでは、

苗木を生産するのが目的だ。新たな森林整備の手法として取り組みを進める他、グループ会社のグリーン発電大分が運営する「天瀬発電所」での燃料活用を見込む。

センタンやチャンチンモドキ、ユーカリといった多様な品種を栽培する。社有林での植栽試験を経て、獣害や雨風、傾斜、土砂災害等に強いハイブリッドな

山土場でのチップ化は、車両搭載式破碎機「LB-515TK」を最大限活用することで、破碎・物流の簡素化やコスト削減を実現する。並行して森林内



種苗センターを開設し早生樹の苗木を生産

の路網やストックヤードを整備し、高効率な未利用材の資源化に乗り出す。

同社は、天瀬発電所向けに未利用材由来の燃料を全量供給する予定だ。(関連記事10面)

木質チップを年間約9万ト生産している。新たなチップ工場を大分県中津市に建設しており、福岡県刈田町に刈田バイオマスエナジー